

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3190400048		
法人名	社会福祉法人 境港福祉会		
事業所名	グループホーム夕日ヶ丘二番館(すみれ棟)		
所在地	鳥取県境港市夕日ヶ丘二丁目92番地		
自己評価作成日	平成26年9月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/31/index.php?action=kouhyou_detail.2013.022.kani=true&JiryoNoCd=3170400182-008&PrefCd=31&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市宗像53番地46		
訪問調査日	平成26年9月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

年を追うごとに住居が増え、地域性が出てきている。毎年の秋祭りによって、事業所が地域の一人として役割を果たしつつある。自治会の方の会議場としても引き続き行い自治会の中心になれるよう努めている。
 子供会の方からも、年季行事の時にはお誘いを頂いていることから、提供と共有の関係が確立されている。
 ジョギングをされる方や、裏の丘で遊んだする方を眺め、子供の元気な声をきくことなど、落ち着いた周辺環境は変わらないが、以前より町らしくなってきた、安心した環境が続いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

境港市郊外の新興住宅街の中にあり、近年、近隣にも住宅やアパートが増えて自治会の活動や、子ども会の児童数も増えてきたおかげで、ホームを中心に地域の交流も多くなっています。消防避難訓練には自治会の参加やホーム併設のデイサービスのホールを自治会の会議の折に開放され、地域との交流が継続されています。管理者、職員は家庭的な雰囲気大事にし、入所者の立場立って意向や希望を聞き取り、ゆったりとした時間の中、楽しそうにケアを実践されています。その結果として、利用者の方の表情や談笑が良いなと感じることが出来ました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼での理念の復唱は引き続き継続している。さらに意識を高めるために、今まで座って行っていたが、立って行うようにした。	地域密着型の理念が玄関、職員事務室に掲示してある。朝礼では理念を復唱している。職員会議で振り返りをしサービスの実践をされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年続けて秋祭りを少し規模を縮小して、より利用者の方と地域の方が、祭りの中で密接にかかわれるよう、文化祭に変更した。また引き続き自治会・子供会の方にボランティアで協力を頂き、地域と連携は深まっている。	自治会内も居住者が増えており、自治を含め地域との関わりが行えるようになってきている。以前からデイサービスのホールを地区集会所に提供することも継続されている。自治会、地区の子ども会のボランティア協力もあります。ホームと地域のつながりがさらに密になるよう秋祭りを文化祭に変更されり、法人全体の夏祭り、クリスマス会に地区の子ども会と交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	文化祭や災害時の対応での協力を行っており、文化祭では普段の様子として、災害時には混乱が想定される為、認知症の方にとって対応す事が良いか等を説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	継続して、奇数月に会議を行ってが、以前と比べると、報告事項が多くなっており、今後は再度意見や問題解決など相談・提案型の会議のなるようにしていきたい。	2ヶ月に1回奇数月に開催されている。入所者家族、市長寿社会課、地域代表、南地域包括支援センターが出席される。利用者状況、行事、研修等報告をされる。管理者は相談などできる会議にと話される。ヒヤリハットは報告だけでなく対応策も報告されると良い。意見や要望はホームで検討されサービスに活かされる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議でも市役所の方がおられ職員も不定期ながら市役所に出向いて連携や協力、相談が行えている。	運営推進会議に出席して頂いている。介護保険制度、手続き等についてや研修の情報など連絡を取っている。又、施設長が策定委員会に参加され、連絡、相談をされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体だけでなく、言葉での拘束も考えている。施錠は変わらず、日々考えているが、勝手口からの離苑があり、別棟の職員が発見して事なきを得たが、緊急策として、施錠を行っている。	外部研修に参加、外部評価に関わる職員を中心に2ヶ月1回接遇研修を行い伝達講習をし職員は理解できている。離設傾向の強い利用者があり、職員は検討し、その時の利用者の様子を見ながら対応されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	共同生活の中での馴れ合いの関係になりがちで精神・言葉の虐待からの質の低下も懸念され、日々の朝礼などでも本人様のペースにあわせることを考え、声かけするよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一昨年から、入所中の方より保佐人がついたかたがいる。具体的な研修には至っていないが今後増えることを想定し、勉強会を開催していくことは検討している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者は、利用開始契約時に、重要事項説明書をもって契約内容の説明を行い理解と同意を得ている。質問や不安内容には納得していただけるよう説明を行い、大きな問題になっていない。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	以前より各棟の入り口に意見箱を設けているがなかなか意見が挙がらないが、日々の面会などで意見を聴取したりして、個々の相談等の改善は行っている。	日々の面会やケアプランの説明時に意見要望を聞き職員会議、管理者と法人で話合わせられ運営に反映される。遠方の家族には頼りや電話で聞いている。	職員の顔写真入りの掲示物を玄関に掲示されると家族にも分かりやすいと思われます。家族の連絡方法の一つに、電子メールの利用も良いと思います。行事やホームの様子を連絡出来たり、意見交換、要望も聞くこともできると思います。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に2回は職員会議を開催しており、必要に応じては朝礼にてケアや発生したリスクによる討議を行い、決定したことなどや対策をできる限り速やかに反映している。	月2回職員会議で意見要望を話し合っている。1回は朝礼9時から10時にケアのカンファレンスを行いケアについて検討している。管理者は職員から相談をしやすいようにされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	2012年より夜勤者が2名となり夜間帯の不安が解消され休憩が取れるような体制となったが、現人員では回数が2倍になり、身体的には負担が増えていることもある。日中でも時間帯によって1名多くなりより外出などスタッフと利用者の方がやりがいと感じる行動が出来るようになってきた。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要とした外部研修には変わらず参加はしているが勤務体制の変更により、その他の研修会に出る機会が減ってしまった。その分施設内で出来る限り行えるよう、委員会を通して少しずつ行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の同業者との交流会を検討しているが、他施設も現状として行にくい部分があるが、今後も調整が出来るよう、管理者等で調整を図っていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にケアマネージャーや管理者が心身状況の不安・困っていることを傾聴している。 施設で出来ることなどを提案を行い入所後は1週間状態を詳細に記録し、様々な視点から連携を取りながら、利用者の方が安心して生活が出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者が入所前の面談、契約時点で家族の方に困っていることを伺い、その後担当職員を中心に施設と職員が報告や相談を行いながら関係が作れるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用希望者はケアマネと管理者が入所前面談において身体面を中心に現状をしっかりと聴取して、どのようなケアが必要かを判断して、入居判断を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームの特性でもある共同生活といる考えに基づき、家族の一員としての視点で対等な関係を築き、生活する中での活動を出来ること、出来るようなことを、互いに協力しながら支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の方によっては差はあるが家族の方の面会があり、居室にて、お茶をしながらしっかりと関係を断ち切らないようゆっくりと面会していただきまたスタッフより電話や広報誌にて現状報告を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力や、ドライブを利用して場所には行けているが、後見人や独居、身元引受人の高齢化が増え、家族との関係が薄れてきている、開きがある部分もある。これからも積極的に働きかけて関係性を保てるよう努めたい	家族の協力で外泊、墓参り、外食などなじみの関係が途切れないよう行われている。ホームの職員とドライブで馴染みの場所に出かけている。友人が面会に来られる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の進行により、互いに理解しがたい部分が増え、利用者の方同士の関係はスタッフが間に入って交流が出来るよう、対応する回数は増えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ケアマネージャーや管理者は、出来る限り退所者の様子を把握するようにしているが、個人情報等の事もあり、間接的はかかわりしかできていない。退所された方へ会いに行くことは互いが希望された場合は行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	立替ではあるが、自ら選んで物を買ひ、外食をするなど提案しながら思いや意向に合わせた支援を行なっている。	日々の会話や行事や家族面会時に聞き取り把握している。困難な方はアセスメントや家族、日々の様子や買い物、外出の会話の中から把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前後に利用者の方の生活状況や嗜好を本人や家族の方に伺ひ、カルテ等に記録している。環境が変わっても継続して生活出来るよう努め、様々な要因で変化があっても振り返りや早急な対応をするための資料として活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ同士での話し合いで終わってしまうこともあるが、緊急性のあるものは職員あるいは担当職員より主任に報告しながら意見をまとめ、管理者に報告を行い変更できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	夜勤回数が増えるなど、職員が集まりにくく意見聴取や意見交換がしにくくなった現状があり、モニタリングやアセスメントの方式、意見抽出方法を変更したところで、プラン完成までの流れや内容が適切かどうか再度検討している。	モニタリング、アセスメント方式の方法を変更され職員と検討されながら実施されている。モニタリング、評価を1ヶ月ごとに実施し、ケアプランの見直し時期にはカンファレンス、サービス担当者会議行われケアプラン作成されている。	アセスメントの本人、家族の思い、意の記録部分が弱いように感じましたので再度検討してみられると良いと思われれます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	継続して個別記録を行い、特変があれば詳細を記入することにしており、その内容に応じて複数回あるいは身体面での緊急性があれば、プラン変更するようになっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在も該当する事例はないものの、個別リハビリなどの専門的に必要だと思われるような方があれば、家族の方に必要性を伝えて、よりよい方向に進むように対応を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用で、自治会等や福祉科高校生のボランティアで子供との交流は行って、とても喜ばれているが、天気等の環境要因で直接地域に出ることも難しくなっており、運営推進会議等で相談を行いたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に往診可能な提携医がある事を伝えた上で、利用者の方及び家族の判断にあわせて、かかりつけ医かを選んでいただき、かかりつけ医や専門医(泌尿器や整形外科など)に受診される時は、継続して情報提供を行っている。	在宅時のかかりつけ医を継続される方や協力医に変更なさった方もおられるが、受診や往診で適切な医療が受けられている。総合病院、泌尿器科、整形外科の受診時は情報提供を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の方の体調急変時や排便がない方への腹部確認など、施設常勤看護師に相談・報告を行ない、速やかな対応や受診が行える体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は各施設ともサマリー等で情報を共有し、適切な医療機関で対応を行っていただき、必要な治療か完治の期間を医師に確認し、かつ認知症の症状が悪化しないよう、早期退院できるよ連絡を取り、対応を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	基本的にはターミナルケアを行っていききたい考えはあるが、医療機関との連携やケアを行なう上でのマニュアルを含めた体制作りには依然時間を要している。家族の方にもターミナルケアを行うことの確認不足もあるので、より早く体制が整うよう努めている。	法人としても、ターミナルケアを行いたい考えはあり、医療連携やケアマニュアルの体制が整備を検討中である。又、職員の重度化や終末期のケアの取り組みなど研修も検討中である。家族には、入所時に重度化、終末期の説明は行っているものの、重度化、ターミナル期の家族への説明が不足している。	家族に対して、最終説明と協力要請を行うためにも、重度化終末期の方針等を文書化されると良いと思います。職員へは、死生観、心のケアも含めたターミナルケアについて、看護師中心に研修を実施されても良いと思います。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDや誤嚥時の吸引対応が出来るように物品を整えており看護師を中心に定期的にマニュアルの確認や実践力を身に付けて、対応できるよう学習している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練実施で、地域に案内し、実際に利用者の方も直接避難して、職員も含めて、利用者の方がどのように動くかを実感して頂いた。しかし消防から、内1回平日に行って欲しいとの要請があり、地域の方の訓練参加が難しくなってきたのが現状にある。	年2回消火訓練、避難訓練を行っている。自治会の防災担当者や自治会長にも参加頂いている。入所者用に緊急時確認用のゼッケンも用意され、着用することで利用者であることが分かりやすくなるようにされている。備蓄も用意されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	気持ちを尊重していることは多くなっているが、拒否されても必要ケアをすることやリスクを考え、尊重できていない部分もある。プライバシー確保も訴えがあれば速やかに同性対応あるいは安全が確保できる環境で見守って行くようにしている。	職員は入所者の人格を尊重した声かけや排泄、入浴の支援にプライバシーを損ねないケアを行っている。入浴介助は希望があれば同性介助の対応も可能である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員も利用者の方の気持ちや考えを理解して個別あるいは他者と会話の中で積極的に聞き出すよう、状況に即して働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調で起床時間や食事時間を遅くし希望によって入浴を早くしたり遅くしたりの対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択が出来ていないところもあるが、入浴の時や寒暖の状況によって利用者の方に伺いながら調節し、起床時には、洗面や寝癖を直して身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	実際の摂取状況を見て、好き嫌いを把握して必要によっては量を調節して、食べられるものはたくさん食べて頂けるようにしている。	食事の摂取量を見ながら好みの把握をし食材や量の対応をしている。職員と共に食器洗い、下膳、茶碗拭きなどされている。職員と一緒に食事をされ食事を勧めたり季節の会話をするなど楽しく食事をされている。外食は家族と受診された時などに行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量が少ない方は、時間を見ながらゆっくりと丁寧に声を掛けている。それでも少ない時は、こまめに提供するなどして少しでも多く摂取できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	虫歯や歯周病、義歯を外されない方もあり丁寧に声をかけることによって、自力で磨かれ、必要に応じてブラッシングの介助を行って、虫歯予防をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	認知症ケアの観点より、昼は特に本人の意志尊重、夜間帯はしっかり寝ていただきたいのこともあり、無理にトイレに行かなくてもという方向性もあるが時間帯は把握しており、誘導して失敗することは少なくなった。	排泄チェック表からリズムを把握し声かけトイレ誘導を行っている。トイレで排泄の習慣を大切にしている。夜間も睡眠時間を大切にしながらトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルトなど食事面や運動を働きかけておこなっているも、食事摂取状態等なかなか出ないことがあり、それによる不穏や腸の疾患もあるので必要最低限であるが、薬で調整をさせてもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回を基本として、1番最初に入浴されたいという希望のある方は対応している。同性対応や一人で入りたいとの要望もあり、利用者の方の能力をしっかりと把握し、危険なく、配慮を行い、ゆっくりと楽しめるようにしている。	週3回午後入浴が行われている。「一番最初に入りたい」という利用者には希望を聞き入れ支援している。「一人で入りたい」という希望の利用者の場合は、安全面を考慮しながら、本人の状態、能力を把握して検討されて支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	声かけが必要な方もいるが、時間に関係なく利用者の方が休みたい時に休んでいただいております。夜間不眠の方は短時間の昼寝や日課活動・外気浴などで活動を取り入れてメリハリをつけるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当者は出来る限り内服薬の情報を知っておくようしているが、忘れが多くあり、マニュアルや対応法を変更して、見直しを行い、ミスは少なくなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	身体状況により出来ない方もいるが、どの利用者の方も、出来ることを継続し、出来ないことも試みて、新たな役割を見つけることが出来るようにしており、感謝を伝えはりと喜びのある生活を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出する機会が増えている。外食や遠足以外でも、ドライブがてら、施設のものや個別の買い物に出かけている。	利用者担当職員が中心となり買い物支援を行っている。花見、紅葉、花回廊など行事での外出もある。行事で出かける時は家族にも声をかけ参加要請を行っているが、家族にも都合などありなかなか実現には至っていない。ホーム周りの散歩、近くのコンビニエンスストアに買い物行かれたり、ホーム前で日向ぼっこなどされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金ではないが、個々で衣類や頂いたお菓子などを挙げ渡しされている現状があり、お金を持つことは極力させているが、1人は本人様の安心感などで毎週金銭管理を行い、買い物を実行的に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	以前と比べて電話を希望される方が少なくなり手紙のやり取りも減ってきており、今後支援をしていきたいと思う。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	昨年より食堂の窓からの西日対策として、グリーンカーテンを行い、光や暑さ対策だけではなく、季節の野菜や花が(ゴーヤ・朝顔)あることで、楽しみや喜んでおられる方がほとんどだった。	全体的に日が入る明るい雰囲気となっている。廊下にはベンチが数回所設置してあり利用者同士や職員と会話を楽しまれる。昨年からリビングには夏にはゴーヤの緑のカーテンをされている。温度管理、調光もしっかりとされていました。行事の写真が壁に飾ってあり家族にも分かりやすいよう工夫されていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にあるベンチで談笑したり、食堂の畳みで座ったりして、共同の空間でも自由に利用できる環境が出来ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや筆筒、写真など利用者の方が必要だと言われたり、職員が感じとり、今までの部屋と変わらない環境は個別で行っているが、家族の意向もあって、少ない方や、認知症の進行により、乱雑な部分もあって、今後も継続して環境を整えていきたい。	テレビや筆筒、家族の写真、自宅で使い慣れたものなど持ち込まれ、自宅での生活を取り入れ居心地よく過ごせる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	貼紙やそれらが分かるようなサインをして、安全かつ一人で出来るよう、声を掛けて支援している。		